

Title	大阪大学低温センターだより No.101 裏表紙
Author(s)	
Citation	大阪大学低温センターだより. 101
Issue Date	1998-01
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/22257">https://hdl.handle.net/11094/22257</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 保安組織表

低温センターで寒剤液化・供給業務を行なっていくにあたっては、高圧ガス保安法により、以下の保安管理のための組織を設けることが義務づけられています。

	吹田分室	豊中分室
保安総括者	城野政弘(工学部長)	櫛田孝司(理学部長)
〃 代理	濱口智尋(副センター長)	都福仁(センター長)
保安技術管理者	百瀬英毅	徂徠道夫
〃 代理	岡田東一	松尾隆祐
保安係員	牧山博美	鷹岡貞夫
〃 代理		石塚守

(平成10年1月現在)

## <編集後記>

年が改まり新鮮な気分で低温センター便りの101号をお届けします。

しかしながら昨年は本当にびっくりするようなニュースが続きました。金融機関の廃業や少年によるショッキングな殺人といった望ましくない“まさか”の多い年でありました。

これに対して、自然科学の世界は好むと好まざるとに関わらず sense of wonder, 楽しい“まさか”, の世界です。不可能と思われていたことを可能としたり, 常識を覆す新しい現象を見いだしたりと“まさか”の興奮が本質的な魅力でもあります。物理の歴史に限っても、20世紀は古典力学から量子力学への飛躍に始まる、まさにスリリングな“まさか”の連続の100年であったとも言えるでしょう。後、僅か2年後に始まる21世紀にはどのような“まさか”が我々を興奮させてくれるのでしょうか。

これまでの100号で、低温センター便りは阪大を起源とする新鮮で楽しい様々な“まさか”を提供し続けてくれました。本号でも、イオントラップとしての液体ヘリウム利用、赤外域での近接場分光、有機EL素子と幅広く興味深い力作を掲載することができました。新米編集委員としては、これまで同様、科学の楽しさをお届けできたのではと思ひ、ホッと胸をなでおろしております。21世紀に繋がる次なる100号を目指し、今新たな第一歩を踏み出した低温センター便りですが、引き続き皆様に素敵な“まさか”の感覚をお届け出来るよう、微弱ながら頑張りたいと思っております。

(藤井 研一)

大阪大学低温センターだより 第101号

平成10年1月 発行

編集責任者 邑 瀬 和 生

発行者 大阪大学低温センター

吹田分室 大阪府吹田市山田丘2番1号

電話 (06) 879-7985

豊中分室 大阪府豊中市待兼山町1番1号

電話 (06) 850-6691

印刷所 阪東印刷紙器工業所

大阪市福島区玉川3丁目6番4号

電話 (06) 443-0936 (代表)

# 目 次

No. 101

## 研究ノート

液体ヘリウムを利用したイオントラップ

—原子核物理学への応用— .....理学研究科 下田 正 ..... 1

ニアフィールド光学技術を用いた波長分解能を超えた赤外顕微分光

.....工学研究科 河田 聡 ..... 12

新規アモルファス分子材料を用いる有機EL素子の開発

.....工学研究科 城田 靖彦 ..... 17

運営組織 ..... 24